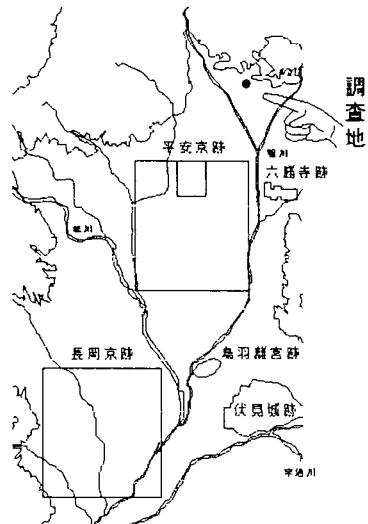


植物園北遺跡

(第7次)発掘調査現地説明会資料



平成2年7月15日

(財)京都市埋蔵文化財研究所

調査地 北区上賀茂松本町98
調査期間 平成2年5月7日～現在継続中
調査面積 約850㎡（敷地面積約1260㎡）
調査主体 （財）京都市埋蔵文化財研究所

1. はじめに

植物園北遺跡は、鴨川左岸沖積扇状地上に広がる弥生時代から古墳時代にかけての市内でも屈指の大集落跡です。遺跡の範囲は府立植物園の北側を中心に東西が上賀茂神社周辺から宝池自動車教習所周辺まで広がっています。その推定面積は約100万㎡にもおよぶと考えられています。この遺跡は昭和54年から3年間にわたる公共下水道敷設工事に伴う立会調査によって、その存在が知られるようになりました。今回の調査地は遺跡内のほぼ中央、深泥池の南に位置しています。

2. 調査の経緯

この地が開発が計画され、それを契機に発掘調査を行なっています。今回の発掘調査に先立ち、遺構の遺存状況を確認するために平成2年4月3日に試掘調査を実施しました。その結果、当敷地内に少なくとも3棟の竪穴住居跡が存在することがわかり、発掘調査を実施することになりました。

3. これまでの調査

植物園北遺跡におけるこれまでの調査は、先述の立会調査と6回の発掘調査があります。

立会調査（昭和54～56年）では主に、弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴住居跡20数棟、古墳時代前期の竪穴住居跡20数棟、古墳時代後期の竪穴住居跡数棟を確認しています。この調査が遺跡発見の契機となりました。

1・2・6次の発掘調査では調査面積がせまく良好な成果は得られませんでした。しかし、3次発掘調査では主として、弥生時代後期の竪穴住居跡2棟、古墳時代前期の竪穴住居跡2棟、4次調査では縄文時代の甕棺、弥生時代前期の遺構および古墳時代後期から中世までの溝や土壇、5次発掘調査では弥生時

代後期～古墳時代初期の竪穴住居跡2棟、古墳時代後期の竪穴住居跡9棟を発見しています。

植物園北遺跡では弥生時代後期～古墳時代後期の遺構を主として検出しています。その分布を見ると弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は、遺跡内のほぼ全域に存在すると考えられます。しかし、古墳時代後期の遺構は上賀茂神社の周辺に分布が限られるようです。

4. 調査の概要

発掘調査は試掘調査の結果を踏まえ、平成2年5月7日より開始しました。調査面積は敷地面積約1260㎡のうちの約850㎡です。遺構は地表下20cm程のところで発見しました。しかし、これまでこの地に建物が建てられていなかったため、非常に良好な状態で保存されていました。発見した主な遺構は表1のとおりです。

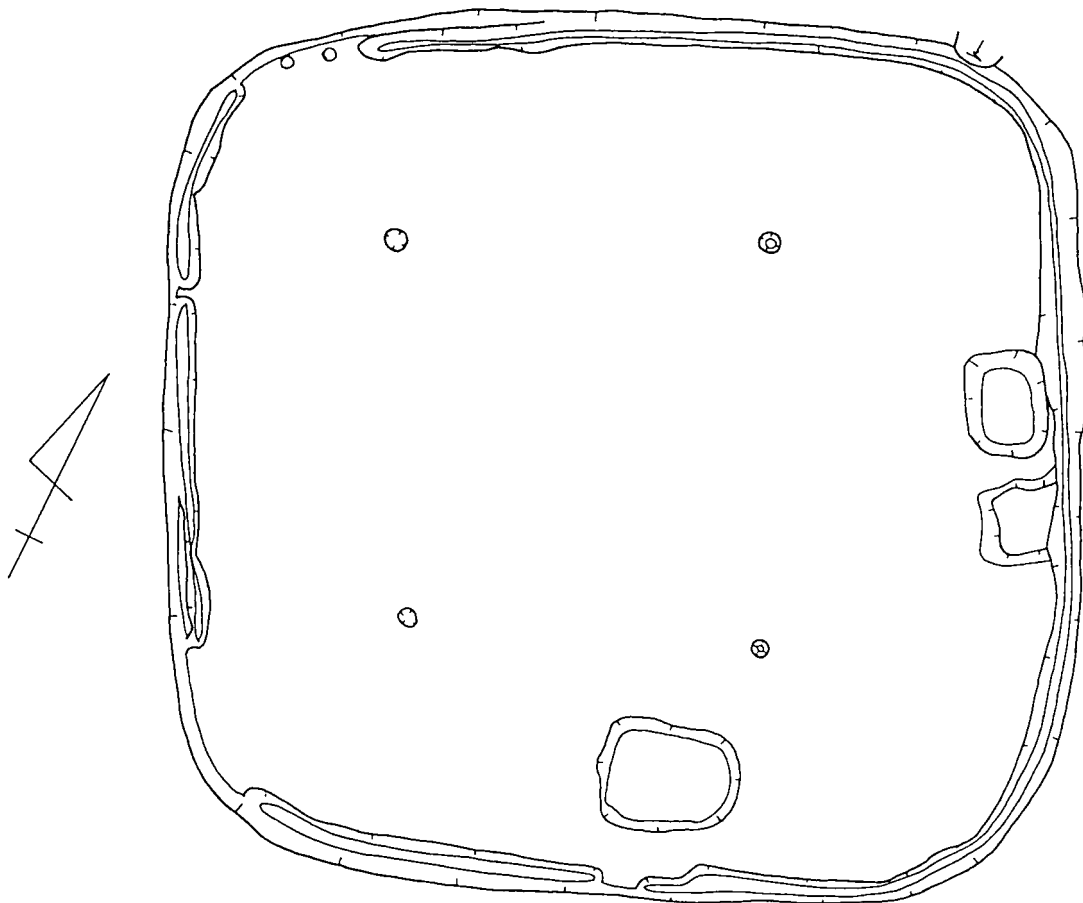
古墳時代前期（4～5世紀）の遺構には竪穴住居跡9棟と土壇2基があります。竪穴住居跡はすべて平面形が隅丸方形です。大きさは大まかに分けて一辺が4.5m以上の大型の竪穴住居（SB-8・9・13）と3m前後の小型の竪穴住居（SB-7・10・12）があります。SB-11・18・19については一辺の長さが確認できず、正確な大きさはわかりません。また、主柱穴については大型の竪穴住居では4つの柱穴が方形に並びます。小型の竪穴住居ではSB-7が主柱穴2つですが、SB-10では発見できませんでした。SB-12は住居跡の約3分の1が調査地東側の側溝によって壊されているために、主柱穴は1つのみ発見しています。なお、SB-7・18は床面に屋根材と考えられる炭化した木片があり、これまでの同様な緒例から見て、火災を受けた焼失住居と考えられます。これら9棟の竪穴住居跡が同時に営まれていたかどうかについては、今後それぞれの住居跡から出土した土器を検討していく必要があります。

平安時代以降の主な遺構には掘立柱建物が7棟あります。SB-20・22・24・31は平安時代に属するものです。いずれも柱穴はしっかりしており、検出面から40～50cm程の深さに掘ってあります。これら平安時代の建物のうち、SB-22はほぼ建物の様子がわかります。南北5間×東西3間のうち、南から3列めの柱穴がありませんが、この部分は土間として使われていたと考えられます。

また、遺構に伴う遺物ではありませんが、縄文時代に使われたと考えられる石器2点（石斧・石匙）も出土しており、植物園北遺跡にも縄文時代に人々が住んでいたと考えられます。

5. おわりに

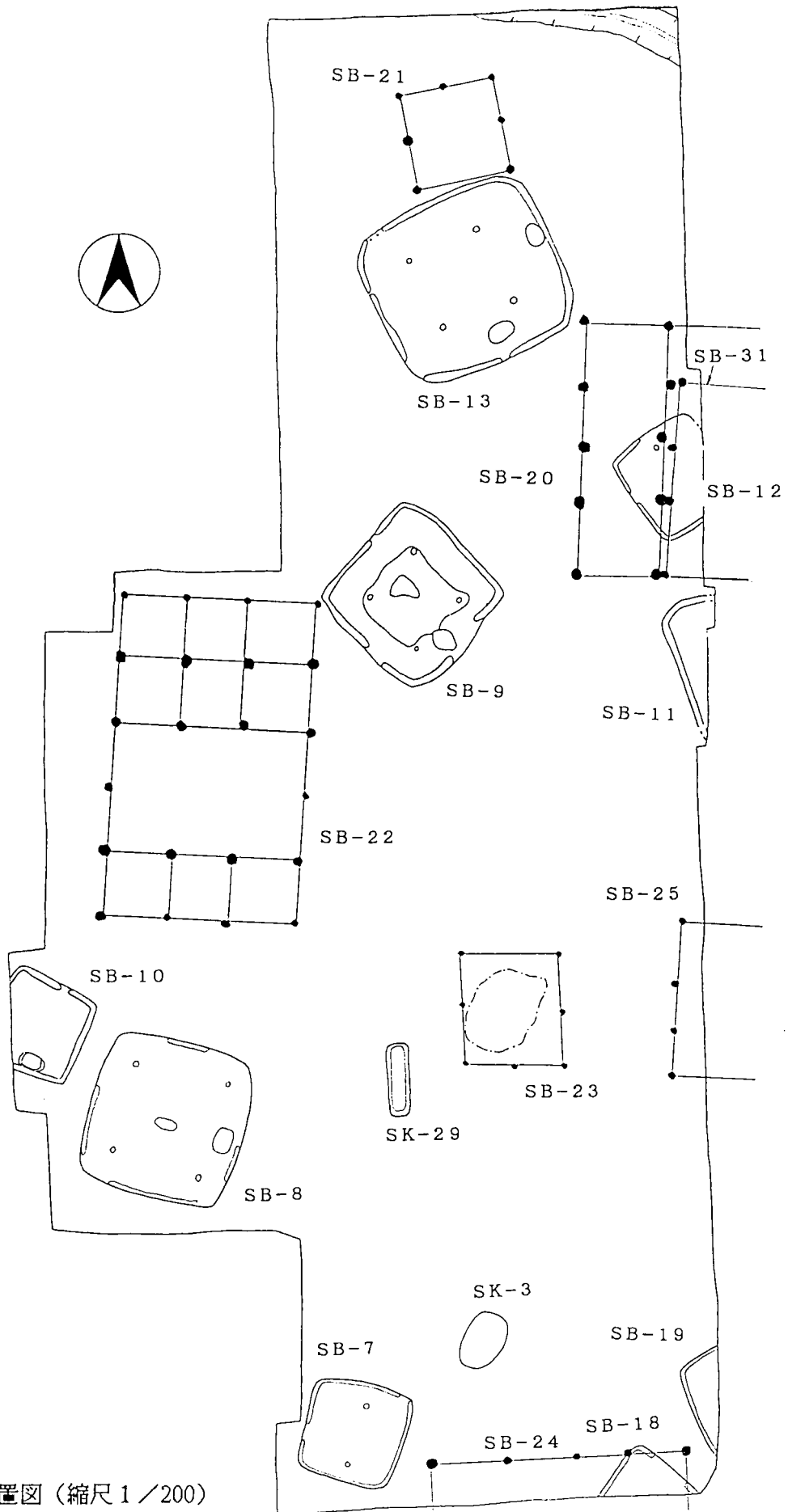
植物園北遺跡は、市内の同時代の遺跡（伏見区鳥羽遺跡・山科区中臣遺跡など）に比べて調査件数が少なく、その様相はあまり明らかになってはおりません。しかし、市内でも有数の弥生時代～古墳時代の大集落跡であり、今回の調査でも明らかな様に遺構の遺存状況も非常に良好です。この植物園北遺跡の調査を今後も続けていくことは、遺跡の全容を明らかにしていくために必要であるというだけでなく、さらには京都市内において弥生時代から古墳時代にかけての人々がどのような生活を営んでいたかを考える上で大変重要な意義を持っています。



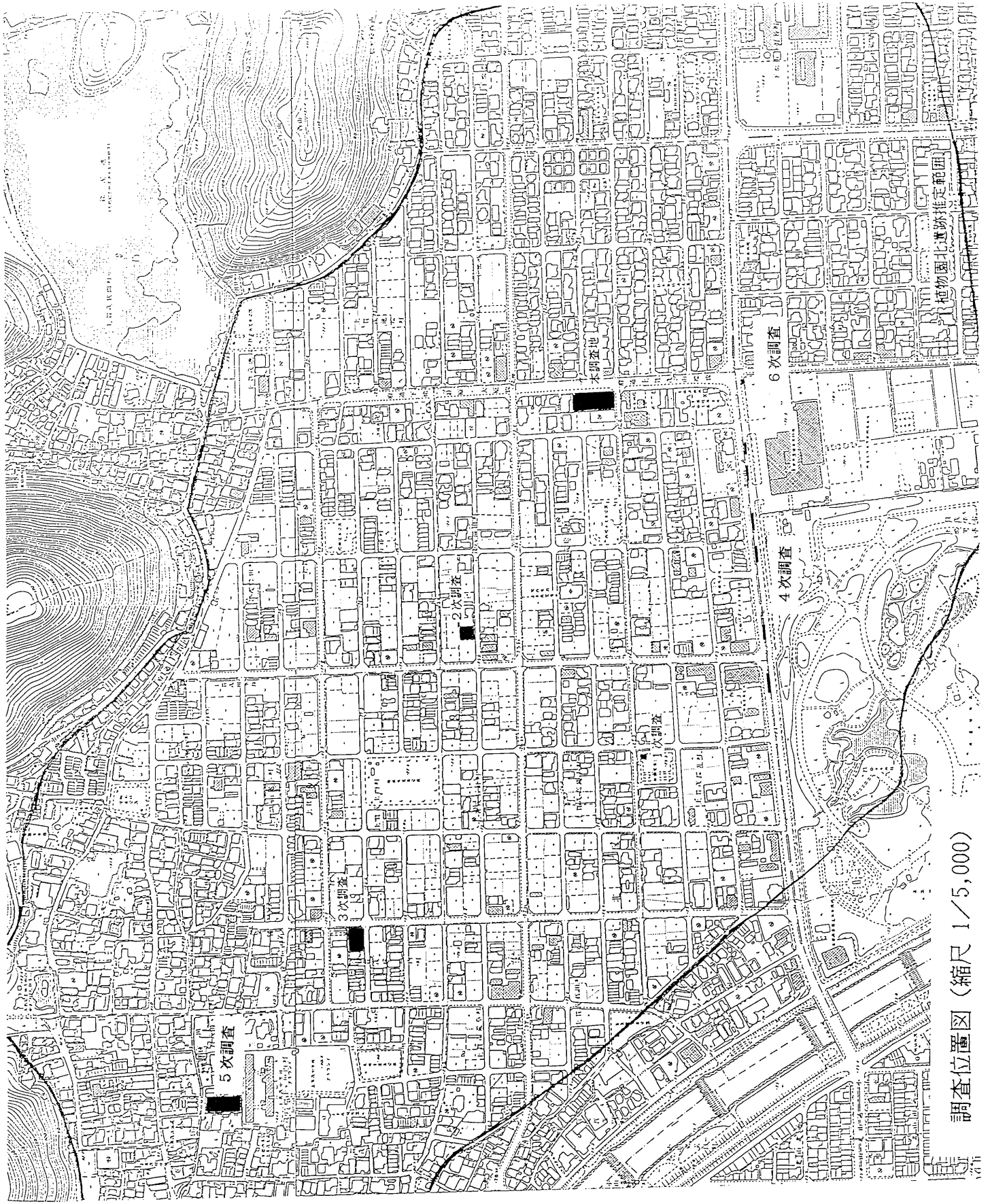
SB13平面図（縮尺 1/50）

表 1. 主要遺構一覧表

遺構名	規模	平面形	備考	
SB-7	竪穴住居跡	3.3×3.0 m	隅丸方形	主柱穴2, 焼失住居か?
SB-8	〃	一辺 5.9 m	〃	主柱穴4, 貯蔵穴1
SB-9	〃	4.7×4.9 m	〃	主柱穴4, 貯蔵穴1
SB-10	〃	1辺 3.1 m	〃	主柱穴?, 貯蔵穴1
SB-11	〃	不明	〃	
SB-12	〃	3.3×3.0 m	〃	主柱穴1, 床面2箇所焼く
SB-13	〃	一辺 5.85 m	〃	主柱穴4, 貯蔵穴2
SB-18	〃	不明	〃	焼失住居か?
SB-19	〃	不明	〃	
SK-3	土 壙	1.90×1.12 m	楕円形	
SK-29	〃	2.40×0.80 m	長方形	
SB-20	掘立柱建物	南北4間×東西1間以上		東に延びる可能性あり
SB-21	〃	南北2間×東西2間		南に開口
SB-22	〃	南北5間×東西3間		
SB-23	〃	南北2間×東西2間		北に開口
SB-24	〃	東西4間		北端柱列のみ確認
SB-25	〃	南北3間		西端柱列のみ確認
SB-31	〃	〃		西端柱列のみ確認



主要遺構位置図 (縮尺 1/200)



調査位置図 (縮尺 1/5,000)